

2023 年春学期語学留学/ディーキン大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで紹介されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。
10:00~12:00,13:00~15:30 で授業が行われる。学校から貰うテキストを使ってクラスで一緒に進めていく形式。たまに英語の本を読む。
先生と学生がコミュニケーションをとりながら授業は進められていきました。学生同士でディベートの時間も設けられました。
15 人前後の少人数クラスで行われ、1 日当たり 2 時間授業を 2 コマ受ける形だった。先生が教科書のページを指定し、そのページに掲載された内容に沿って英語の勉強を行う。基本的に先生が学生を名指して当てるわけではなく、学生自身から発言することの方が多いため、その日の授業でどれだけ学力が身につくかは自分次第なところがある。
文法を学ぶことは少なくグループワークが中心で会話が多めの授業形態だった。
先生の話や聞く時間よりも、学生同士でグループを組みコミュニケーションをとることが多かった。
1 テイク 5 週間の授業体制で、一クラス大体 20 人いない程度。先生によって授業の進め方は異なり、シラバス通り教科書を主に使用する授業もあれば、先生が用意したプリントを使用して学生同士で会話がメインな授業もありました。また、授業で使用するために借りた本とともにオーストラリアの歴史等について勉強したり、その本の一部を映画で見たりしました。
授業は午前 10 時から午後 3 時半までで昼休みが 1 時間ほどありました。進め方は 1 日の初めに 1 日学習する 1 つのトピックについて学習し、それに出てくる単語や文法について学習して、午後からそのトピックについて自分の意見を述べたりディスカッションをしてグループワークをして、課題としてトピックについてライティングをするというのが基本的な流れでした。
前半の 5 週間は人とコミュニケーションをとることを重視してスピーキングがメインの授業だった。後半の 5 週間は教科書に沿って進める関西外大とあまり変わらない授業だった。
一週間のうちに先生が 2 人おり、月、火、水は A 先生、木、金は B 先生。のように曜日に分けて一日で一人の先生が担当してくれた。一日の授業時間は、10 時~12 時授業、12 時~13 時半は昼休憩。13 時半~15 時半は授業。 少人数授業のため、先生が学生ひとりひとりの反応をみながら授業をしてくれた。
1 グループ 4 人程度で先生が出すお題に関して英語で会話をする。グループで先生から出された課題を話し合いながら進めていく、英語を使って簡単なゲームをしたりしました。
ディスカッションやプレゼンテーションなど話す機会が多かったです。
ディーキン大学の授業の形態は個人の英語の writing のレベルで分けられ、そのレベルにあった授業内容となっている。5 週間が 1 take となっており、クラス変更ができる。
1 テイク目は教科書と先生がプリントを用意してくれました。先生が質問を投げかけてそれをグループで話し合うことも多かったです。2 テイク目はほぼ教科書と先生の話や話をひたすら聞く感じでした。1 テイク目よりグループワークは圧倒的に少なかったです。授業内容は先生によって全然違います。
クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。
16.18 人ぐらいの少人数制。日本人が多く、日本人 8 割、他の留学生 2 割。コロンビア、タイ、中国
クラスの人数は 15 人程度で 3 分の 2 は日本人でした。留学生の出身国はタイ、コロンビア、韓国、中国、トルコなどです。
多くのクラスが日本人メインのクラスで、約 8 割は日本人の割合で、外国人学生はコロンビア人、タイ人などが多く、数人程度しかいなかった。
クラス人数は約 20 人、日本人と留学生比率は 9 割日本人 1 割留学生、留学生の出身国中国、タイ、コロンビア

20人弱 日本人7割 ベトナムが多かった
私の場合、日本人の留学生が多かったので、クラスの半分以上やほとんどが日本人のクラスが多く感じました。私が出会った留学生の出身は、コロンビア、タイ、ベトナム、トルコ、中国、サウジアラビアなどで、私の周りの人はほとんどが日本人でした。この中では、コロンビアや中国の留学生が多く感じました。
期間中に1回クラス変更があって、1回目のクラスは15人いてコロンビア人が2人、サウジアラビア人が2人、タイ人が1人、韓国人が1人、日本人が9人でした。2回目のクラスは13人でコロンビア人が2人、中国人が2人、インド人が1人、タイ人が1人、韓国人が1人、日本人が6人でした。
前半後半どちらも15人ほどの小さいクラスだった。前半は1/3がほかの国からの留学生(タイ、コロンビア、ベトナム、トルコ)で、後半はタイ人2人以外は全員日本人だった。
15名ほどの少人数グループで、関西外大から派遣された人がクラスの半数を占めていた。また、関西外大以外にも、日本の他大学からきている日本人もいた。他の留学生の出身国は、ベトナム、コロンビア、タイ。
1クラス20人程度、GEクラスでは日本人の割合は7割~8割、外国人2~3割、留学生の出身国はベトナム、タイ、韓国、コロンビア、台湾、インドネシア、トルコ、中国、
15人ほどで10人以上は日本人でした。日本人の他にはコロンビア人、中国人、台湾人、トルコ人などがいました。
クラスの人数は少なくても7人から多くても20人くらいで、日本人の割合は半分以上を占めていた。留学生は様々な国から来ていたが特に日本や中国、タイ、コロンビア、インド、サウジアラビアが多い。
2テイク目は日本人7人、コロンビア人2人、タイ人とサウジアラビア人がそれぞれ1人ずつで全員女子でした。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

他の国の学生は自分の意見をはっきり伝えられるところ、先生によってクラスの雰囲気は変わる。
明るくみんなが発言していました。トイレや、お水を飲みたかったらみんな自由に部屋を歩き来していました。
日本人学生は日本人同士で休み時間を過ごしたり行動を一緒にしていたので英語よりも日本語が良く飛び交う印象が強かった。授業の始まるタイミングが日本の授業と違うと感じた。基本的に先生も学生も少し遅れて教室に入ってくるので、その分終わる時間やタイミングも予定より遅くなることがあった。
授業中にコーヒーや食べ物を買に行ったりガムを噛みながら授業を受けたりとても自由だった。
日本よりも堅くなく自由な雰囲気だったが、居眠りする人などはほぼいなかった
授業では、先生が質問するとき名指しで学生に聞くというよりは、わかった人が自由に発言したり、質問したりしていました。日本人が質問をしていたところは、あまり見なかったです。しかし、個人的に聞きに行く学生はいました。座席はなんとなく決まっていたが、時折先生がシャッフルしたり、ペアワークをする時間を与えてくれるので、ずっと同じ人同士での会話を避けられたし、違う国出身の留学生と交流できたりしました。
授業は先生と学生の繋がりが日本よりも多くて、学生が積極的に発言したりしやすい雰囲気でした。日本語等の英語以外の母国語を話すとしっかり注意して下さる先生で学生第一に考えて授業をして下さってました。クラスもみんなが仲良くなって、みんなでご飯を食べたり授業後に遊びに出かけたりするなど、本当にみんながお互いを受け入れ合っていて最高の雰囲気でした。
前半は日本人以外が多く先生もよく話を聞いてくれていたため、質問や発言がとてもしやすかった。後半はほとんど日本人で、先生もその日の内容を終えることを優先していたため、発言がしにくい雰囲気だった。
クラスの雰囲気は、みんなで英語を使って話そうという意識を持っていたので、できるだけ、母国語は使わないようにしていた。しかし、本当にわからないときだけ、母国語で互いに確認する、といったものだった。日本の授業と違う点は、電子機器系(PC,スクリーン等)を頻繁に用いて授業をするということ。また、席替えの様な制度があり、中の良い友達だけではなく、クラス全員とコミュニケーションが取れるように先生が配慮してくれていた。
全ての授業が少人数で、日本の授業と違って議論する回数が圧倒的に多かったり、誰かと聴力して課題を進めていくこと、学生が積極的に手を挙げて声を出すところがありました。日本で英語の授業をしようとする、英語みんなの前で話すのが恥ずかしかったり、消極的になる人が多いイメージでしたが、留学したクラスの雰囲気は日本人は多いが積極的に話せる、恥ずかしさをもつ雰囲気がなかったのがよかったです。

年齢も国籍もさまざまなのと1タームが5週間なので、仲良くなる前にクラスが分かれてしまいます。
日本の授業より、自由を感じる。トイレに行きたいときは言わずに自由に行ける。スマホや飲食も許されている。学生はさまざま国からきているので、多様性がある。先生も偏見なく接してくれ、理解してくれる。
2テイク目は先生が話してそれを聞いてばかりだったのであまり日本と変わらなかったです。それもあってか、序盤でクラス替えをしていた学生がかなりいました。

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。
オーストラリアに滞在中、地震が起こり、翌日の朝の授業が昨日の地震のことについてのトピックに変わりオーストラリアでは珍しいんだなと思ったこと、オーストラリアは法律的には独立した国ではなく、イギリスに許可をもらってから法律を変えられるということを初めて知った。
迷信
私たちの性格を形づくるものはなにか
日本とオーストラリアの文化の違い
みんなで同じ本を借りて、その内容について映画を見たり、知らない単語を先生に質問したり、要約を発表したりと、一つの本だけでいろいろなことを学ぶことができました。私が授業で使用した本は、「Red dog」, 「Rabbit proof fence」でした。どちらも、オーストラリアの歴史や有名な本だったので、面白かったです。
グループワークでポッドキャストの SCRIPT を考えて、実際のラジオ局に行って録音して、クラスで1つのポッドキャストを作ったことです。オーストラリアの文化や歴史などのテーマについて調べ、SCRIPT を考えたりして、さらに読む際の抑揚も工夫するために考えたり苦労しましたが、成功して完成した時にクラスのみみんなで喜びあった時が1番印象に残っていて、本当に貴重な経験でした。
超常現象や奇妙な実話について
特に印象に残っているトピックは、アボリジニについてです。アボリジニの物語である、rabbit proof fence という小説を数ページずつ読んでくるように、と課題があり、後日どんな話であったかを授業でペアの相手に説明する。そしてその映画を見て内容の理解を深める。日本では知り得なかった、オーストラリアのまだ最近まであったむごい歴史について学ぶことができた。
印象の残ったトピックは各国の文化や価値観の違いに関して話し合いをした時です。例えば、食事、暮らし、治安、教育や恋愛などのさまざまなことの違いについて話し合ったり、4択のゲームから違いがわかったりして印象に残りました。
アボリジニについてです。日本では詳しく学習しないため日本人はクラス全員ディスカッションもなにも出来ていなかったのを覚えています。
色々な国を知るためによく YouTube で音楽を聴いたり、映画を見ていた。特にオーストラリアのお土産を紹介する動画が印象に残っている。
アボリジニに関するトピックが印象深かったです。アボリジニの少女が題材になっている本や映画を通して、アボリジニに興味を持ちました。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。
分からない単語、よく使う単語、初めて知った単語やフレーズをメモ帳にまとめていた。7分間のプレゼンテーションでは何回も読む練習をしてほぼ覚えらように用意したこと。
わからないことは必ず聞き自分の意見をきっちり伝えることです。
なるべく前の席か先生に近い席に着くことで、授業に集中し発言を多くしていた。日常生活での出来事も先生や外国人学生と話すことで、英語を使う回数を増やしていた。
日本人と会話する時も英語で話すように努力していた。
新しい知識を増やすために、その日習ったことをストファミリーに話していた。
基本的に自由に発言することができたのですが、自分の意見や回答に自信がないとき、発言することを恐れ、言い出せないことがよくありました。しかし、先生や周りの留学生には自分が思っていることはもちろん伝わらないので、間違えてもいいからできるだけ授業に積極的に参加しようと常に心がけていました。また、わからないことがあったら、授業の間でなくても、先生に直接聞きに行ったり、アドバイスをもらいに行っていました。

1番努力して良かったのはクラスが4人1つのグループだったので、クラスの数人でクラスの全員に同じ国の人同士だけで固まるのを止めて、毎日変わりながら違う国の人同士で座って授業を受けようと呼びかけて、工夫したこと。また積極的に発言し、分からないことは質問すること。

できるだけ教科書の文を読むより先生の説明を聞いて理解できるように努力した。

どうしても日本人が多いクラスだったが、できるだけ日本語を使わないようにすることを心掛けていた。また、ホームステイ先で、家族がいたらできるだけ英語で話しかけて英語を使うように心がけた。

授業を受けるにあたって努力していたことは発音矯正です。クラスの前で話すことも多く、自分の英語が伝わらないことがありました。それは自分の発音が良くないからだと思ったのでスマホのアプリを使って、授業で新たに習った単語や文章の発音を何度か繰り返して発音して正しい発音に変えるようにしていました。

意味がわからない単語をメモして、帰ってから意味を調べて覚えるようにしていました。

全て英語だったので、わからないことはすぐ先生に聞くようにした。なるべく自分の意見を言うようにした。ほかの意見を無視せず、納得してもらえるように努力した。

メモ帳に自分のわからない単語やフレーズを書くようにしていました。私のクラスは積極的に発言する人が少なかったため、自分から発言するように心がけていました。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの人でしたか。	通学手段	通学時間
2人	関西圏の大学に通う日本人	バス	15-30分
0人		バス	15-30分
0人		バス	45-60分
2人	日本	バス	30-45分
1人	日本	徒歩	0-15分
1人	日本人	バス	45-60分
3人	日本人の留学生が1人と中国から来ている大学院生が1人いて、大学院生のルームメイトは私が滞在をしてから1か月ほどしたら中国に帰国して、それと入れ替わりで中国からの留学生が来ました。	バス	15-30分
0人		バス	15-30分
0人		徒歩	0-15分
3人	ベトナム人二人、中国人一人	バス	30-45分
1人	日本人が1人いました。	その他	45-60分
1人	ホームメイトは同じ日本人で、1週間だけ中国人のホームメイトもいた。	バス	30-45分
1人	一歳上の日本人	バス	30-45分

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
ベッド、机、枕、椅子、最低限の物	ファブリーズ、服、筆記用具、シャンプー類、スキンケア類
ドライヤー、ベッド、机、クローゼット、本など必要なものはほとんどありました。	衣類や洗面用具

ベッド、勉強机、ヒーター、ハンガー、ティッシュ、毛布、手鏡、延長コード	タオル、スリッパ、ヘアアイロン、シャンプーリンスボディソープ、寝間着など
勉強机、ベッド、クローゼット、棚	服、洗剤、シャンプー、トリートメント、ボディソープ、洗顔、メイク落とし、化粧品水、乳液、生理用品、コテ、歯ブラシ、歯磨き粉、化粧品
布団、勉強机	ドライヤーなどシャワー時に使うもの
バスタオルやハンカチ、湯たんぽ、ベッド、タンス、クローゼット、机、ライト、ハンガー、かがみ、ヒーター	生理用品、化粧水等
机や椅子、ベッドや布団、クローゼットや鏡など、暖房器具も用意してあって凄く快適で何の不自由もなく生活出来ていた。	シャンプーや歯ブラシなどの日用品は日本から持参したものが無くなったから、自分で購入して用意していました。
手元の電気、勉強机、寝具、暖房器具	洗濯洗剤、シャンプー、ボディソープ。
ドライヤー、ベッド、ベッドシーツ、枕、エアコン、棚、クローゼット、ハンガー、鏡、机、トイレ、トイレトペーパー、シャワールーム、洗面台、ゴミ箱	歯ブラシ、タオル、生理用品、洗顔、シャンプー、リンス、ボディソープ、室内用スリッパ、シャワー用スリッパ、洗濯ネット、折り畳み傘
ベッド、机、椅子、エアコン(各部屋で調整できないタイプ)	日本の箸、茶葉、4着分の服、アウター1着、タオル5枚、歯ブラシ、洗顔やシャンプー、ホストファミリーへのおお土産、英語の参考書(単語帳、文法書)、日焼け止め
ハンガー	離れに住んでいたので日常生活で使うもの(ドライヤー、食器用・洗濯用洗剤、食器など)はほとんどなかったため、自分で用意しました。
鍵、バスタオル、折り畳み傘、歯磨き粉、ハンガー、トイレトペーパー	シャンプー、リンス、ボディソープ、ティッシュ、歯ブラシ
ベッド、収納棚、机、椅子、ハンガーラックとハンガー、バスタオル(用意してありましたが使いませんでした)	お風呂道具、ティッシュ、スリッパ

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。

家に入るときも土足だったこと、シャワーの時間が短いこと、洗濯が週1、2だったこと。
洗濯頻度が週に1回でカルチャーショックを受けました。下着などは多めに持って行ったほうが良いです。
トイレの水の流し方。二つのボタンがあり、どちらもさほど水量に差がないので最初は戸惑っていた。
選択は週に1回、シャワーの時間は10分でも長い、コップは朝新しいものを出して夜まで同じものを使う、食器を手で洗わず食洗機に入れて3日分まとめて洗う
お風呂の時間が決まっていること。使いすぎるとお湯が出なくなること
誰かがシャワーを浴びてるときに水を使用できなかったこと、水の使用やヒーター等に関して節約する場面が多かったこと、食文化の違い
食器があまり汚れていない場合は洗剤を使わずに水だけで洗うこと。自分の家では無かったけど、シャワーの時間が決められていたり、洗濯をする日が決まっていたりしている家庭もあることを聞いて驚いた。
洗濯の回数が少ない。
毎度の夕食は必ず家族と食事をするわけではないということ。勝手なイメージで、毎度和気あいあいとした食事をすると思っていたが、家族にもそれぞれ用事があるため一人で食べる時もあった。
トイレとシャワーが同じ部屋なこと、トイレのウォシュレットがない、トイレは日本ほど綺麗ではない、シャワーの時間が短く時間が決まっていたこと、
ごはんの品数が少ない、シャワーの時間が制限されている
家と部屋が大きくて、日本の二倍くらいの大きさがあつた。ごみの分別がしっかりしている。水が貴重なので5～10分でシャワーを済ませなければならない。洗濯は週1である。
シャワーの時間が5分以内だったので、髪の毛長い人はかなり大変です。トイレ、洗面台、シャワーが同じ部屋なので使いたいときに使えない場合があります

ました。

思ったことははっきりと伝えるといいと思います。雰囲気を感じ取ってもらえると思っていると時間だけが無駄に過ぎていくので、これをしてほしい、これをしたいと言葉で伝えないと伝わりません。

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

あまり神経質にならない方がよい

自分はゲストではなくて家屋の一員という意識を常につけておくべきです。そして家族とたくさん話すことです。

何か不備があれば必ずホストファミリーに聞く。特に話すことがなくてもホストファミリーの近くにいる。何か使用したいものがあれば許可をしっかりとってから使う。

わからないことはわからないとはっきり言う、自分の気持ちを伝える

必要なものは何か事前にホストファミリーに聞いて準備していく

後々言い出しにくいことが出てきたりするので(例えば使用済みの生理用品をどう捨てたらいいとか)、自分の生活を頭の中でシミュレーションして、早めに聞くようにしたほうが快適に過ごせると思います。また、英語の勉強をしないと！と張り切りすぎても、早い英語や自分の理解力のなさにストレスに感じてしまうことがあるため、ルームメイトがいる場合はその子にいろいろ聞くのを勧めます。同じ日本人でなくても、まだ聞きやすいかなと感じました。

一番は上手に伝わらなくても、伝えようと努力をすることです。それを意識した上でせっかくの英語で会話できる機会でもあるので多くの時間をリビングなどのファミリースペースで過ごして沢山会話をする事です。ホストファミリーは会話の中で自分の発音のミスや新しい単語を教えてくれたりするので本当に貴重な時間だと感じました。また、文化の違いとして受け入れなければならない場合もありますが、自分が嫌な事は我慢せずに相談してみる事です。

下着、靴下等はできるだけ多めに持って行く。少しでも家での生活やホストファミリーの対応に違和感を感じたらルームメイトや留学先大学の先生に相談する。

もちろんホストファミリーと時間を共にしてコミュニケーションをとることも大事であるが、初対面で本当の家族になれるわけではないので、理想を求めすぎるのは良くない。自室に戻って自分の時間をとることも必要。

ホストファミリーの方やルームメイトと仲良くすること、英語力をあげる事(特にリスニング力)、自分の意見をはっきり言えることの3つです。

洗濯は1週間に1回なので下着は最低7組

わからないことがあれば、すぐに家の人に聞く。ささいなことでもいいからホストファミリーと会話をするようにする。

思ったことははっきりと伝えるといいと思います。雰囲気を感じ取ってもらえると思っていると時間だけが無駄に過ぎていくので、これをしてほしい、これをしたいと言葉で伝えないと伝わりません。

パソコンは持参しましたか。	携帯電話	インターネットは部屋から接続可能でしたか。	その際に費用はかかりましたか。
はい	日本からSIMカードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本からSIMカードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本からSIMカードを持参	ワイヤレスで可能	はい
はい	日本からSIMカードを持参	LANケーブルで可能	いいえ
はい	日本からSIMカードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本の携帯をそのまま持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本からSIMカードを持参	LANケーブル/ワイヤレス共に可能	いいえ
はい	日本からSIMカードを持参	ワイヤレスで可能	はい

はい	留学先で SIM カードを購入	LAN ケーブル/ワイヤレス共に可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本の携帯をそのまま持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本の携帯をそのまま持参	LAN ケーブルで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア /サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
大学の10週間無料のジムに行くこと。	友達や現地で仲良くなった異国の友達と CITY へ出かけること、
パディプログラムに参加しました。現地の大学生や、留学生と1時間会話をして英語力を鍛えたり交友の幅を広げました。	CHADSTONE SHOPPING CENTER や CBD で買い物や遊んだりしました。学校のジムや図書館で勉強しました。
大学内で行っていた留学生のための学習ルームに行き、ほかの留学生と話したり英語の本を読んだりしていた。	学内のジムに行くか、カフェで軽食を食べた。帰り道にある学校の近くのハンバーガーショップやスーパーマーケットにも行った。
大学のジムに行っていた	coles というスーパーでよく買い物をしていて、授業終わりには hungry jacks というファストフード店でハンバーガーを食べた。
お昼の自由時間は1時間半あったのですが、大学では 12:30~13:15 の間で毎日 ILC という教室で留学生同士で UNO をしたりゲームや交流ができるスペースの時間があつたり、週に 1. 2 回ほどクラブ等のイベントが開催されていたので、お昼に余裕があるときは、参加していました。また、パディプログラムといって、ランダムで 2. 3. 4 人でグループのチームで週に一回お昼ご飯と一緒に食べたりどこかに出かけに行ったりする交流プログラムがありました。私の場合、例外でオンラインだったのですが、楽しかったです。	学校からシティ (Flinders street) のほうまで約 1 時間だったので、学校終わりに買い物しに行ったり、家に帰る途中に大きいショッピングセンター (chad stone) があつたので、よく利用していました。
1 番良かったと思うのはパディプログラムです。現地の学生と週に 1 回、昼食の時間や授業終わりの時間などに会話をして交流するプログラムで、お互いの国について紹介したり、英語を学習する上で困っていることやアドバイスもくれたりして、現地の学生と関わる貴重な時間でした。他にも大学が主催するスポーツ観戦などのイベントにも参加しました。	授業終わりにジムやバスケットやサッカーなどができるコートを利用して友達と運動したりしていました。他にも図書館やカフェなども課題をするのに利用していました。
大学が昼休みに主催するイベントに参加した。	大学の図書館
日本語教室という、日本語に興味を持つ外国人に、日本語を英語で教える。学内のジムで運動する。校内ツアー、学内カフェでおしゃべり	校内へ移設のカフェ。特にマフィンがおいしかった。ディーキン大学構内にカフェが 3~4 か所あり、語学学校から本キャンパス棟へ渡った先にあるカフェが一番安くておいしい。
昼食は友達とご飯と一緒に食べて、いろんなゲームができて集まることのできるルームがあるのでそこで遊んでました。放課後はだいたい大学にあるジムでトレーニングをしていました。土日祝日はいろんなところに観光しに行っていました。	学内にあるジム、カフェ、レストラン、ILC という UNO とかいろんなゲームができる部屋、
大学のなかにある ILC というボードゲームやお話することができる部屋で他の学生たちと遊んでいた。	

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
英語の勉強、実際にその学校に行った人に欲しかった物や持って行った方がいい物を聞く
日本の文化をしっかりと伝えられるように準備しました。英語やオーストラリアの文化も勉強しました。
お金を貯める。留学先の情報をよく調べる。(気温や為替、文化慣習や治安など)ホームステイ先へのお土産や、衣服の用意など。
英語の単語やリスニングを勉強したりしていました。また自己紹介で使えるフレーズなどを少し勉強していきました。
単語の覚えなおし
洋画洋楽を聞いて、耳をならす。英単語の勉強。
会話でよく使うフレーズの暗記、シャドーイング
日常会話で使うようなフレーズを覚えたり、英語を聞いて耳をならしていました。物価が高いのが分かっていたので、冬休み、春休みはバイトも頑張っていました。
少しでも英語に触れようと洋画やドラマを観ていた。

留学前にしておけばよかったと思う準備
英語の日常生活で使うカジュアルフレーズを覚える
有名な人物や世界のことにもっと興味思っておけばよかったです。
ネイティブの人たちが良く使う英単語やフレーズを確認しておけばよかった
英単語の勉強
現地のありがちなルールを調べておくこと、NG 行動
海外には日本に興味を持っている人が自分が思っているよりも多くて、もちろんオーストラリアの現地の事を勉強することも大事だけど、現地でも出会った人とは自分の国のことをお互いに質問したりするので、日本のことについてもっと勉強すれば良かったと思います。他にも留学に行ったほとんどの人が感じる事だと思いますが英語の単語やリスニング力などもっと準備していくべきことが沢山あるように痛感しました。
日本の有名な文化等話題にできそうなものを考えておく。
思っていることを英語で話す練習。いざ急に話そうとすると、英単語が出てこない。日常で使えるようなフレーズを調べておくとよいかも。
発音の勉強
スピーキングの練習
文法の勉強と現地でのお金の使い方を考えとけばよかったと思った。
ライティングの基本をもっと詳しく勉強しておけばよかったです。

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの
ファブリーズ、みそ汁、カイロ、生理用品
ホストファミリーの子供たちにはポケモンカードやアニメのグッズが喜ばれました。日本のお菓子は現地にも売っています。食べ物はいびせんを持っていきました。2、3日で食べ終わって、とても喜んでくれました。
防寒具やヘアアイロンなどの日用品。
水筒、薬、パソコン
シャンプーやボディソープ等は現地でも買えますが、初日に買いに行く時間がなかったり、慣れていない場所で買いに行けなかったりするので、少なめでもいいから持っていくことをお勧めします。お土産に日本のお菓子と、日本で作られている良い歯ブラシセットをプレゼントしたら喜んでくれました。
日本のお土産やお菓子や文房具など。ホストファミリーが好きと言っていた日本茶をお土産で持って行ってとても喜んでいただき、すぐに使って飲んでく

<p>れました。他にも日本の文房具に他の国から来た友達が本当に興味を持ってきてことに驚いてすごく印象に残っています。日本のお菓子も現地で買えますが、他の国の友達とお互いの国のものを紹介するのに丁度良いので、喜ばれました。</p>
<p>マスク、ボディクリームなど保湿できるもの。日本より乾燥しているので夜にマスクを着けて寝ていた。</p>
<p>ウェットティッシュ、ティッシュ。ホームステイ先の自室についたとき、ほこりっぽかったため、掃除から始めた。その時に役立った。日本のお菓子(ハイチュウ、じゃがりこ)は、オーストラリアの子どもにも人気のように喜んでくれた。</p>
<p>持参して役立ったのはスマホ、アニメのグッズ。</p>
<p>ナプキン、京あめ</p>
<p>日本の食べものは高いがほとんど買えるため、物のほうが喜ばれる。洗濯が週1だったのでファブリーズが持って行って正解だと思った。すごく寒かったのでカイロがあつて助かった。</p>
<p>生理用品。特に夜用は日本と違って長さを選べるわけではないので心配な人は持って行くべきです。レトルトの日本食があるといいと思います。現地で購入と高いです。</p>

日本から持っていく必要のなかったもの	日本から持参すればよかったと思ったもの
日本でもそこまで着なかった服	ない
ドライヤー	アウター
ドライヤー、日本の食べ物(味噌汁)、大量の服	シェーパーやかみそり、鏡、暇つぶしできるもの(本など)
洗剤	日本食(カップヌードル、お菓子、味噌汁など)
洗剤は必要ないかなと思います。たいていのホームステイ先で使用させてもらえると思います。靴は2足もっていきましたが、一つしか使わなかったです。	水筒、パスケース、上着何着か
シャンプーや歯磨き粉などの日用品は沢山はいらないと思った。日用品は特にこだわりがなければ、現地で購入した方が余計な荷物にならないので日本から持参しなくても良いと思った。	これを持ってこれば良かったというのは無かったです。
日本で使っていた文法のテキスト。空いた時間に勉強しようと思って持って行ったが、課題をしたり、ホストファミリーと話したりしていたため使わなかった。	日本で使っていた文法のテキスト。空いた時間に勉強しようと思って持って行ったが、課題をしたり、ホストファミリーと話したりしていたため使わなかった。
鏡。クローゼット全面鏡になっていたので必要なかった。	室内用スリッパ。ホームステイ先は、靴を玄関で脱ぐタイプの家だったが、普通に靴で室内を歩いたりもするので、靴下が黒く汚れる。
ふりかけ、100均で売っている電子レンジで白ごはんとかパスタが作れるもの	アウターもう1着、タオル、部屋着(持参した数が自分は少なかったから)、
ハンガー	多めの下着、タオル、日本食
タオル、ハンガー、かさばる服	ジップロック
週に一度しか洗濯ができないのでたくさんの洋服はいらないです。お風呂道具は荷物にもなるので現地調達で大丈夫です。	ヘアアイロンとドライヤー。

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくらぐらい準備しましたか。
クレジットカード2枚、現金	クレジットカード上限10万、現金3万程度
カード、現金	カード20万、現金5万
十分なほどのお金を口座に入れておいて、支払いは基本的にクレジットカードにした。海外手数料がかかって割高になるので現金をなるべく多く用意しておく方がいい。	クレジットカード上限 20 万、現金 5 万円分
クレジットカードと現金	クレジットカード上限20万、現金5万
主にクレジットカードを使用して、現金は4万程度換金しておきました。	クレジットカード、現金4万、日本円1万
クレジットカード1枚とデビットカード1枚と現地通貨の3種類。留学のために新しくカードを発行したりすることはなかったです。	10万上限のクレジットカード1枚、上限が無いデビットカード1枚に合計40万円と現地通貨5万円を用意しました。
クレジットカード、現金少し。友達と割り勘するときに現金が必要になるが、お店での支払いはすべてクレジットカードだったため、そんなに現金を持っていく必要はない。	クレジットカード上限 10 万、現金 3 万
現金は2万円。カード払いだったため、現金はマーケットや、友達と割り勘をしたときのみしか使わなかった。	現金2万円。クレジットカード2枚。カード上限は各々、30万円と20万円。
マーケットのために2万5000円両替しましたが1万円以上余りました。マーケットでもクレカが使えるところが多かったので両替しなくてもクレカだけで生活できそうです。	クレジットカード上限 30 万、現金 20 万(両替したのは 2 万 5000 円)
換金所で何万か現金を準備して、クレジットカードを主に使っていた。	現金は12万円くらい換金して、クレジットカードは15万円くらい準備しました。

現地で支払った住居費と食費を教えてください。

友達との外食の時だけ、食費は払いました。ですがホームステイ先でほとんど食事していたのであまりかかっていません。
食費に9~10万円ほど。
月によって差がありますが、食費は友達と外食する際に支払っていて、3ヶ月で8万ほど使用していました。
家にあるものを食べていいと言われていたため、昼食が準備できなかった日だけ大学のカフェで500円程度のものを食べた。
住居費は特になし。インターネットも請求されることはなかった。食費、買い物、お土産等合わせて20万円弱。
食費10万円程度(外食多めだったので)
食費が全部で100ドルくらいだと思います。

テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。

通学費は毎月40ドルぐらい
通学費1万程度
通学は定期券を購入したので、1万5000円ほど。
1.5万円
定期を購入したので300ドル程度
授業は教科書も配布されましたが基本パソコンを使って授業していたのでテキスト代が別途かかることはなかったです。通学費は交通系カードの定期

代が月 1 万 5 千円程でそれを 3 か月の間使っていました。
通学費は往復 600 円くらいだが、定期券のようなものを買ったので実際は 600 円より少し安いと思う。
0円。徒歩通学であったため。
通学費一ヶ月 1 万 5 千円程度 (MIKI パスの定期券の値段)
テキスト代は分かりませんが、通学費は定期で 2 万円ほどでした。大学から最初の 1 ヶ月は定期になっている IC カードが配られたのと、郊外だったため、2 ヶ月で 2 万円です。
テキストは学校から無料で支給され、通学費は 10 週間で 1 万 5 千円くらいかかった。
テキスト代はかかってません。Myki パスがトータルで 200 ドルくらいだと思います。

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。
お土産、服、靴、旅行に 15 万くらい
おもに衣類やカバン、お土産などにお金がかかった。15 万円ほど。
約 25 万円
お土産やプレゼント等も含めると 20 万程度
シドニー旅行に 8 万、その他のお土産等の買い物に 10 万ほど、娯楽に 7 万ほど使っていたと思います。
SIM カードを使用、毎月 5500 円
食費、買い物、お土産等合わせて 20 万円弱。
15 万円程度
朝食・間食と、毎週末土日どちらか又は土日両日の外出費、お土産に使った金額は、約 3 ヶ月で 20 万は超えるくらいでした。
旅行や外食、個人的な買い物で 15 万円くらいかかった。
全部で 20 万くらい

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析
コミュニケーション能力が上がり、自分はやっぱり人と話すことが好きだと感じた。
いく前よりは確実に語学力、コミュニケーション力は上がりました。ホストブラザー、ホストシスターと話したりゲームをした時間がとてもいい時間でした。
かなり自分の持つポキャブラリーが増えたように感じる。コミュニケーションも取らざるを得ない環境だったので、かなり上達した。リスニングに少し弱いことがわかったので主にリスニングスキルを向上することに力を入れた。
日本で過ごしている時よりも断然英語を話せるようになった。英語を話さなければコミュニケーションを取ることができないから、その生活に慣れるまでは自分のわかる単語と文法を駆使していた。
留学前は、自分の英語は間違っているかもしれないという怖さからあまり英語で発言したくないという気持ちが強かったが、留学終盤にはホストファミリーに自分から話しかけられるようになり、自信を持って上手な英語を話せるようになったねと褒めてもらった。
ペラペラではないですが、わからないとき誰かに話しかけに行くことはできるようになった。自分の英語に少し自信を持つようになって、相手に伝わる楽しさを感じれました。
最初は聞き取ることも上手くできなかったけど、日常生活や授業の中で徐々に聞き取れるようになったし、話すのも学校では現地で出来た友達といて、家ではホストファミリーと毎晩話したり凄く仲良くなれたので話す機会が沢山あって言語力とコミュニケーション能力ともに上達したと感じました。
コミュニケーション能力は向上したと思う。語学力はリスニングとスピーキングは良くなったと思う。
留学初日は、ホストファミリーが話す英語を聞き取るのに苦労したけど、徐々に聞き取れるようになっていた。発音の勉強をし続けているうちに発音が

良くなっているねと言われるようになったり、店員やネイティブの人に自分の英語が少し伝わるようになっていった。コミュニケーションは深い内容を話すことはできなかった。

語学力に関しては、留学前より容易に聞き取りができるようになった。留学に行ってから性格が明るくなって、初対面の人とも楽しく話せるようになった。

リスニングは向上したと思います。自分の思ったことを素直に伝えられるようになりました。

留学前の目標とその達成度

経験にお金を妥協しなくなかったのが、それが実現できた。そこでしかない物や場所にたくさんいったこと。

日常会話や授業についていきたいと思っていました。

英語力はもちろんだが、特にコミュニケーション能力と自分の見る世界を広げたいという目標があった。この留学を通し、自分の席阿寒が大きく変わったと実感する。自分の中で勝手にタブーだと思っていたことが今はためらいなくできるようになったり、人の目を気にしないという事の自由さや快適さが身に染みてわかった。

目標：外国人と1対1で遊びに出かけても楽しめるくらいの語学力の向上 達成度：外国人の友達と遊びに出かけて一日中楽しく過ごすことができた。

こわがらずに話せるようになるという目標を達成できた。

日本以外の出身の子と友達になりたいと思っていて、実際友達が何人かできたので嬉しかったです。

留学前は考えるよりもとにかく何事にもチャレンジすることを目標にしている、実際にホストファミリーにもガツガツ質問したり、クラスの留学生に話しかけたり、向こうで出来た友達と遊びに行ったりなど英語力はもちろんですがそれと同じかそれ以上に大切な経験と思い出が出来て、達成度としては言語力はもっと伸びるに越したことは無いですが、何事にもチャレンジするという目標は達成できたので充実した三ヶ月になったと思います。

リスニングとスピーキングを鍛えることを目標としていた。スピーキングはわからないが、帰国直後に受けた TOEIC のリスニングは以前よりも点数が取れていた。

留学前はリスニングがとても苦手で、TOEIC の長いリスニング問題が問題だったが、留学後すぐに TOEIC を受けたところ、リスニングがぐんぐん頭に入ってきて、リーディングよりも成績が良かったので、留学前のリスニングの苦手を克服できた。

自分の伝えたいことを伝えることができるようになることが目標でしたが、達成はできなかったように感じます。しかし、留学前と比べると分からなくても伝えようと努力はするようになりました。

留学前の目標は日常会話程度の会話ができるようになることで、達成度は70%くらい。

自信をもって英語を話せるようになることを目標にしていました。わからないこと聞きたいことは遠慮せず聞き、自分から話しかけることができるようになったと思います。

留学を通しての成長ポイント

挑戦力、コミュニケーション能力、状況適応力

コミュニケーション力が上がりました。

おもに環境変化への忍耐力や、いろいろな物事の見方や考え方、視野が広がったと感じる。多種多様な人々がいる地域だったため、今まで知らなかった現実を受け入れようとする理解力などが高まったと感じる。

語学力はもちろん、コミュニケーション能力や自分の気持ちや考えを周りに流されずに伝えられるようになった。また自分に自信を持つことができた。

自分に自信を持てるようになった。

英語レベルは格段に上がったわけではないですが、積極性やポジティブに物事を考えるくせがついたり、冷静に判断するようになりました。

成長した点は英語力はもちろん、それに加えて問題解決能力が身についたと思います。クラスでのプロジェクトの時など、上手く進まなかった時などにしっかりグループで話し合う機会などを作って乗り越えたり、分からない箇所があったらホストファミリーや先生にも相談したりするなどの解決に向けて行動する力が付きました。

日本より一人で行動して思ったことを遠慮せずに口に出す人が多かったため、それらに抵抗がなくなった。
すべては自分の責任で、もちろん誰かに頼ることも必要であるが、自分の選択であることを忘れないこと。その力が身についた。
価値観が広がったこと、周りを気にすることがなくなったこと、発音の知識がついたこと、行動力がついたこと。
留学してリスニング力が上がったことを最初に感じました。
例え自分の英語力が完璧でなくても、自信をもって話すことができるようになった。わからないことがあったらすぐ人に聞くのではなく、自分で考えて行動する力が身についた。世の中にはいろんな人がいて、いろんな考えを持っている人がいることを知り、それを否定するのではなく、理解しようとするようになった。
エッセイライティングのスキルは向上したと思います。積極性は身についたと思います。わからないからすぐにネットで調べるのではなく、自分の知っている言葉で表現できないかを考え伝える力がついたと思います。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

留学後は、もっと英語が話せるようになりたくて、まずは TOEIC の勉強をして英語ができるという強みを持ちたいと思うようになった。
留学後の今が一番モチベーションが高いです。出会ったみんなにまた会ってたくさんお話をしたいです。
留学前よりもモチベーションは大きく上がったと感じる。留学前はとにかくたくさん単語を覚えようとしていたが、留学で現地の英語に触れて、単語を覚えるだけでは会話はスムーズに行えないと気づき、主にアクセントを中心に勉強しようとした。帰国してからはせつかく覚えて身に着けた語彙力やリスニング力、アクセントを忘れないために、スピーキングや文法を中心に勉強している。
留学前は異国の地で生活することに不安でいっぱい留学中も最初は自分の語学力で授業についていけるか不安だったけど生活に慣れると毎日新しいことを学べてモチベーションが上がった。帰国した今も留学経験を活かして語学学習を頑張るモチベーションがある。
留学中は英語しか通じない環境にいたことが多かったため、毎日成長しないといけないと頑張っていた。
先生やほかの学生の英語がだんだん聞き取れるようになったころは、自分も伝えたいなと感じるようになったし、先生やホストファミリーがよく使う英語を真似して使うようにしていたので、英語を学ぶことに関しては常にモチベーションになっていました。
留学前は単語や文法の暗記など机に向かってただ闇雲に勉強してただけで、留学中に友達やホストファミリーと話したり様々な経験をする中で自分の足りていない点が分かって、帰国してはそれに向き合うために座学もしながら、大学で留学生と関わりを深める方法を考えたり、大学外でもオーストラリアで出来た留学生と英語で電話したりするなどして英語を使い続けるなどして確実にモチベーションが上がっています。
モチベーションは変わらず、何か得られるものはないか常に気を付けていた。
リスニング力が上がったことで、洋楽の歌詞を見ずに何と言っているかを聞き取れるようになることで自信がついたし、英語で話しかけられても、驚いたり、ひるんだりせずに翻訳機も使わずに英語で伝えられるようになった。
留学前や留学中は会話ができるような勉強に重点を置いていました。留学後は、TOEIC などの資格勉強をしています。英語に対するモチベーションは一貫して続いています。
留学中、英語を母語としないたくさんの人に出会って自分の英語力が低いことを改めて実感しました。もっと勉強して英語力をあげたいです。
留学前はあまりやる気がなかったが、留学中は英語を話さなければならない状況にいたので、自然と英語に対する考えが変わり、自分から英語の質問をしたり、英語で会話の練習をしていた。留学後は英語で洋画やドラマを観たり、アルバイトで積極的に外国人の接客を英語でしている。
留学前は単語や文法を覚えてれば大丈夫だと思っていましたが、難しい単語を使うことはないし文法が間違ってもコミュニケーションをする分には問題ないと感じたので間違えたらどうしようという心配や不安がなくなりました。また、いろんな国の人と会話することで、英語学習だけではなく世界各国の言語を学びたいくなりました。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

一人で行うプレゼンテーションです。10分間一人で話す緊張感とみんなに理解してもらえるように100パーセントの力を振り絞りました。

ホストファミリーが話す英語がとても速く、聞き取れなかったことに悔しさと焦りを覚えたので、とにかくいつも一生懸命自分の持っているボキャブラリーでホストファミリーに話しかけた。特に、自分の気持ちを伝えたいときは細かく多く話して理解してもらおうとした。

自分の成績に関わる留学生とのグループワーク

授業で分からないことがあったら、その日のうちに聞きに行くこと、休憩の時間ずっと教室にいてるのはもったいないと感じて、イベントに参加したり共有スペースに行くよう心掛けていました。

授業の初日にクラスで会話していたタイ人と韓国人の留学生に話しかけに行った時です。上手く伝わらなかったらどうしようなど、考えていたけど話しかけに行くと仲良くなれて、それをきっかけに沢山の友達が出来て最初に力を振り絞ったおかげで充実した三ヶ月になったと思っています。

他の国からの留学生と一緒に取り組んだプロジェクト。お互いに言いたいことがうまく伝わらないこともあったが、全員が納得するまで話し合いをして、期限までに完成させることができた。

writing の授業で、前タームの成績があまり良くなかったが、最後のテストで、時間に余裕がありながら、先生にうまくまとめられている、と良い評価をもらえたとき。

課題にあった最後のプレゼンです。刑罰に関することが自分のプレゼンのテーマでした。難しいテーマだったので一生懸命調べて、しっかりしたプレゼンをしようとしていました。

初めて1人で外出したときです。頼れる人がいないので、初めての場所や体験を1人でするのは勇気が必要でした。

授業でのプレゼンテーションや、言語のコミュニティに参加したとき

ライティングとスピーキングのテストです。ライティングはトピックが抽象的で自分の考えを具体的に表すのが大変でした。スピーキングテストは自分一人で10分前後のプレゼンを準備しなければならず、力を振り絞った気がします。

留学先大学の良かった点

先生方が親切、設備が綺麗、ジム利用が10週間無料。

休み時間などには UNO やオーストラリアについて知れるゲーム、コミュニケーションがたくさんできるルームがあって良い時間を過ごせました。先生たちもどんな話も親身になって聞いてくれたのでとても楽しく留学生活が送れました。

みんな優しい

先生がとても親身でいつもたくさん話す機会を与えてくださった。

施設がとても綺麗、外国人と交流する教室があった、いろんなカフェがあった、ジムがあった、無料で食べ物を配ってくれる日があった

設備が整っていてとても良かった

イベントが多い、事務や共有スペースがあること

学校内で学生同士が繋がれる機会を沢山設けてくださったのでクラスだけではなく、本当に色々な国の人と繋がることができたこと、ジムなどのスポーツ施設も充実していたりして国は違えど同じ趣味を持つ友達が出来たり、バディプログラムといった現地の大学に通う学生とも関わる事出来て、先生も真摯に指導して下さって、良いところばかりで挙げ始めると沢山ありますが、とにかく学生を第一に考えて下さって本当に充実して過ごせていました。

他の留学生との交流の機会があった。リーディング、リスニング等の自由に使える教材がおいてあった。

留学生に向けていろんなイベントが週一くらいに開催されていたこと、先生が優しく、いい先生だったこと。

午前中と午後2時間ずつの2コマだったので朝も早すぎず、午後自分の時間が作れるところが良かったです。

無料のジムや自習スペース、レベル別のクラス編成、そしてカフェの食べ物がおいしかった。

留学生とたくさん交流できるイベントをたくさん企画してくれました。施設がとてもきれいでした。